

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp <http://www.iwate.nangen.jp>

自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもを目指して

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会

会長 飯岡 竜太郎

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度、岩手県内の通級指導教室は、ことばの教室が91教室、きこえの教室が37教室、LD等指導教室が28教室、幼児教室が31教室、全部で187教室が設置されております。

先日開催いたしました代議員会や理事会において承認いただきましたが、今年度の本教育研究会では、研究主題を「自分の目標に向かって主体的に学ぶ子をめざして～自立を促す指導・支援の在り方」とし、今年度における研修や教育実践をとおして、障がいの特性やそれぞれに応じた指導法を学び合うとともに、自分のよさや可能性を認識し、目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざした自立を促す指導・支援を究明していくこととなります。

今年度の代議員会、研修会、理事会を通して、本教育研究会の運営や、通級指導教室の設置、教育課程等、様々な課題はありますが、そのような課題とともに、教育研究の本質である「その子の学びを如何によりよいものとするか」ということについて、会員同士が常に語り合える、学び合える、そのような会でありたいとあらためて感じたところであります。

そのためには、一人一人の子どもたちの障がいの特性や実態をとらえることも大切ですが、子ども自身が「こうなりたい」「このようなことができるようになりたい」という自らの変容や成長につながる率直な思いをいかに引き出し、その思いに寄り添っていくかが重要なことであると考えております。

ここ数年続いたコロナ禍も、少しずつ落ち着きを取り戻し、教育研究団体の活動も、特別な制限を考慮することなく行えるようにもなってきました。今年度も、「目の前の子どものため」「岩手の子どものため」の、会としての充実した取組が推進できますよう、会員の皆様には、学校業務等でお忙しい中とは存じますが、今年度の本研究会の運営や研究推進におけるご理解やご協力を、どうぞよろしく願いいたします。



《令和5年度役員・地区会長・地区理事・研究班理事について》

◎今年度の研究会の活動を推進して下さる皆さんです。よろしく願いいたします。

役員	会 長 飯岡竜太郎（盛岡市立桜城小学校長） 副会長 梅野 展和（盛岡市立好摩小学校長） 会計監事 中屋 豊（盛岡市立厨川中学校長）	副会長 中村 幸子（盛岡市立杜陵小学校長） 副会長 牟岐茂里雄（八幡平市立大更小指導教諭） 会計監事 本田 岳雄（盛岡市立厨川小学校長）
地区 会長	盛 岡 藤村 健一（盛岡市立見前中学校長） 花 北 東海林泰史（花巻市立東和小学校長） 両 磐 大鷹 真（一関市立藤沢小学校長） 宮 古 五十嵐善彦（宮古市立千徳小学校長）	岩手 舞良 昌孝（滝沢市立滝沢東小学校長） 胆江 佐藤 浩司（奥州市立岩谷堂小学校長） 上閉伊・気仙 佐藤 拓巳（住田町立世田米小学校長） 県北 久保田純子（洋野町立大野小学校長）
研究班 理事	校長班 皆川 晃宏（盛岡市立手代森小学校長） 幼児班 小澤 幸恵（釜石市教育委員会）	難聴班 千葉 晶子（滝沢市立滝沢東小学校） LD班 高橋 良子（一関市立山目小学校）
地区 理事	盛 岡 藤村 隆（矢巾町立不動小学校） 花 北 佐藤 匡子（花巻市立石鳥谷小学校） 両 磐 今野 枚紀（一関市立東山小学校） 宮 古 畠山栄美子（岩泉町立岩泉小学校）	岩手 岸本 洋行（滝沢市立鶴飼小学校） 胆江 村上 春枝（奥州市立水沢南小学校） 上閉伊・気仙 榎引 博成（大槌町立大槌学園） 県北 藤村 裕子（九戸村立伊保内小学校）
事務局	事務局長 下村 絹子（桜城小） 事務局員 中塚 貴子 堺 秋子 佐々木真子（桜城小） 大志田裕子（杜陵小） 柴田 正徳（青山小） 熊谷亜紀子（津志田小） 関 幸子（手代森小） 田村かおり（土淵小） 福島恵美子（向中野小） 盛内 俊彦（好摩小） 五代儀康代（日詰小） 菊池 朱理（滝沢東小）	

令和5年度 県内の教室担当者数

(人)

	通級指導教室担当		特別支援学級担当		巡回指導 担当	合計
	小学校	中学校	小学校	中学校		
ことばの教室	86	0	0	0	5	91
きこえの教室	1	0	24	12	0	37
LD等通級指導教室	16	12	0	0	0	28
合 計	103	12	24	12	5	156

幼児教室担当	31
---------------	----

◎令和5年度 学級・教室・施設の変動状況

<新設校> <新設教室> <校名変更> <閉級・閉設>	花巻市立太田小学校 きこえの教室 北上市立和賀東小学校 きこえの教室 北上市立笠松小学校 きこえの教室 奥州市立衣里小学校 きこえの教室 一戸町立奥中山中学校 きこえの教室 大船渡市立大船渡第一中学校 きこえの教室 金ヶ崎町立金ヶ崎小学校（ことばの教室，きこえの教室）※きこえの教室が新設教室 九戸村立伊保内小学校（ことばの教室，きこえの教室）※きこえの教室が新設教室 一関市立涌津小学校 ⇒ 一関市立花泉小学校（ことばの教室，きこえの教室） ※きこえの教室が新設教室 盛岡市立下橋中学校 きこえの教室 一関市立興田中学校 きこえの教室 陸前高田市立高田第一中学校 きこえの教室 大船渡市立立根小学校 きこえの教室 宮古市立宮古西中学校 きこえの教室 一戸町立奥中山小学校 きこえの教室
--------------------------------------	--

《研究推進について》

- 1 研究主題 **自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして
～ 自立を促す指導・支援の在り方 ～**
- 2 研究内容 **地区研究会・研究班の課題や実態に応じた研究内容とする。**
 (1) 研究の内容 本会の研究主題を基に各研究班各地区研究会が研究内容を設定し、進める。
 (2) 研究の方法 授業研究, 文献研究等
 (3) 研究成果の発表 研究大会において成果を発表する。
 令和5年度 校長班(花北地区)難聴班 LD班(小中)盛岡地区, 上閉伊・気仙地区
- 3 研究計画
 【1～3年次】 令和5～7年度 実践研究
 【4年次】 令和8年度 研究のまとめ, 次年度研究テーマの検討 全班・全地区

《事業について》

(1) 第64回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会について

- ① 期 日 令和6年1月9日(火)
 ② 会 場 いわて県民情報交流センター「アイーナ」
 ③ 内 容 ・開会行事, 分科会(研究班・地区研究会の研究の発表と協議), 講演, 交流会
 ・日程, 内容の詳細については, 第2回理事会で協議する。

※開会行事の中で, 感謝状贈呈を行う。対象者は, 各地区で推薦し, 第2回理事会で決定する。

④ 日 程

9:20	9:45	10:05	10:10	11:30	12:30	13:45	14:00	15:30	17:00	19:00
受付	開会 行事	休 憩	全体発表 80分	昼 食	分科会 75分	休憩	講演 90分	連 絡	移 動	交流会

《編集・刊行・調査について》

- 令和5年度 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会 名簿
- 会報「県きこL研ニュース」年4回発行予定
- 第64回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会 発表資料集
- 令和5年度 きこえ・ことば・LD等・幼児教室 指導幼児児童生徒数の調査

《お知らせ》

○ 第52回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会「埼玉大会」について

- ① 期 日 令和5年7月27日(木)・28日(金) 対面参加(定員700名), オンデマンド視聴参加
 ② 会 場 埼玉県大宮市 ソニックシティ(さいたま市大宮区桜木町1-7-5)大宮駅より徒歩3分
 ③ 内 容

記念講演 「共生社会におけるコミュニケーションのあり方 ―発達障害からの示唆―」

講師: 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授 本田 秀夫 氏

基調講演 「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方について」

講師: 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 城之内恵司 氏

分科会 聴覚障害, 構音障害, 吃音, 言語発達・読み, ICT活用, 自閉症・情緒障害, 進路

・キャリア教育, 幼保～就労までの連携, ことばの教室経営と他機関との連携

40回 岩手県きこえ・ことば・LD 等教育研究会研修会 報告

- 1 期 日 令和5年5月2日(火)
- 2 会 場 いわて県民情報交流センター「アイーナ」
- 3 参加人数 164名



講座A1 ことばの教室における教室経営
八幡平市立大更小 指導教諭 牟岐茂里雄先生



講座B1 難聴についての指導・支援I
岩手県立聴覚支援学校 教諭 熊谷美智子先生



講座C LD等通級指導教室における教室経営
盛岡市立津志田小 指導教諭 小野寺佳織先生
盛岡市立厨川中 教諭 庄司悦子先生



講座D 吃音についての指導・支援
花巻市立花巻小 教諭 吉池 稚重子先生



講座A2 発音についての指導・支援
盛岡市立津志田小 教諭 熊谷亜紀子先生



講座B2 きこえの教室における授業づくり
滝沢市立滝沢東小 教諭 千葉晶子先生



講座 C2 LD等通級指導教室における
授業づくり
岩手町立沼宮内小 教諭 仁昌寺 利明先生
滝沢市立鶴飼小 教諭 小野寺真記子先生

講座 F 口唇・口蓋裂についての
指導・支援
滝沢市立鶴飼小 教諭 岸本洋行 先生



午後の研修は、言語通級指導教室担当は課題別で、難聴班，幼児班，LD班に分かれて研修が行われました。現状報告，指導や支援の仕方，今後の運営方針等について，意見交流が活発にされました。

<教室経営1>

巡回指導時の他校担任との連携，ことばの教室の始業式，終業式について，担当者の加配の扱いについて，指導時間のない時間に補強やサポートに入るため，授業の準備や教室事務ができないなど，各教室の運営上で困っている点を中心に話し合いが行われました。

<教室経営2>

巡回指導・タクシー通級，空き時間と見られがちな時間割の形態，コロナ対策を中心に話が進められました。その他にタブレットは指導に有効なので，ことばの担当者にも欲しいという話題が上がりました。



<構音障がい1>

はじめ・終わりの式について，退級の見極めと習熟のさせ方，自己批正力を高める方法等具体的な指導について，交流が行われました。また，コロナ禍での親の会の運営や会費の使い方も話題になりました。

<構音障がい2>

イ列音の指導について，母音指導やうがいを丁寧に行うことが大切であることが話されました。評価についても話題となり，面談や報告書の様式について各教室の様子を交流しました。

<構音障がい3>

構音指導よりも言語指導中心の指導・吃音指導等について、話し合われました。

構音だけでなく児童実態に合わせた色々な指導をする必要があるということが話題になりました。

<構音障がい4>

3つの柱：検査見立て判断，効果的な指導法，指導鏡について意見交流されました。

「検査結果を有効に使いながら，楽しく指導できるようにつながりを大切にしましょう。」というまとめになりました。

<吃音・緘黙1>

障がい認識・受容の時期や方法，「担当者として何ができるか」について，意見交流が行われました。吃音の指導に，終わりがあるわけではないので，本人・保護者の話を聞くこと，担任や周囲とつながることが大切であるという確認になりました。

<吃音・緘黙2>

主に「自覚のない児童への指導」について話し合われました。「学年（個人）に合わせた声かけの仕方」「将来の見通しを持たせつつ，困った時には相談する力，環境を整えておくことが大切」というまとめになりました。



<言語発達遅滞1>

発達遅滞の判断や指導方法，終了の目安について話し合われました。特に指導方法については，児童の実態に合わせ具体例を示しながら交流することができました。

<口蓋裂>

自己紹介の中で1年生の口蓋裂児童が多いことが話題になりました。見立ての大切さ，指導過程と指導方法について意見交流が行われました。岸本先生からたくさん教わった時間となりました。

<言語発達遅滞2>

語彙を増やす，ことばを育てるための手立て・方法について，カードやアプリ等を紹介しながら具体的な指導方法を一人一人紹介し合いました。

<難聴班>

今年度の難聴班の運営確認や各教室の様子について交流しました。外国語学習の取り組み，ロジャー補聴器の効果的活用，軽度難聴や補聴器装用等で聞き取りに困り感のない子どもへの対応，自立活動の時間確保等，気になっていることについて，話し合われました。





<LD 班>

今年度の県の研究主題を受けて、地区ごとに地区研のテーマや研修計画を話し合い、全体で確認をしました。

その後の意見交換では、具体的な授業実践を見る場、学習する場が欲しいという意見が出されました。

<幼児班>

少人数に分かれて、指導上の課題などが話し合われました。就学に向けてのアプローチの仕方、幼児から学校に向けてのつながりが幼児教室の役割になるということが話題になりました。



講演 愛着障害の理解と支援

～発達障害との違い、関係～



社会福祉法人智徳会 未来の風 せいわ病院

理事長 智 田 文 徳 氏

講演の初めは、愛着障害の海外の研究についての説明でした。「栄養面よりも心理発達面での環境面の劣悪さ」が大きな要因として上げられ、その重症度は養子にきた年齢相関より年長できたものにおいて有意に重かったという結果が報告されたということでした。

次に、愛着障害の定義～愛着を理解するための3つのポイント・愛着形成に必要な3つの基地機能について、モデル図を示しながらわかりやすく説明をしていただきました。

さらに、愛着障害の見分け方と支援のあり方について、具体的なポイントを例示しながらのお話がありました。

愛着障害の理解が深まった、あっという間の90分間の講演会でした。